

JOUHOKU SHINDAN 誌

～第13号 診断士が稼ぐ手段”書く～ 2015年12月23日～

皆さん、こんにちは。城北支部広報部です。診断士の先生のプロフィールによく出てくるのが「著書・執筆」の実績。多くの“稼ぐ”先生たちが、ビジネス書や雑誌の記事を執筆しています。

執筆で稼ぐには何が必要なのか？多数の記事執筆実績を持ち、自身のブログではさまざまなビジネス書の書評を書かれている城北支部所属の中郡久雄先生と“書いて稼ぐ”ために必要なものは何かを探ってみました。

【診断士が稼ぐ手段！ 本や記事を“書く”】 城北支部 中郡久雄先生

●ご自身のブログで面白い書評を書いている中郡先生ですが・・・

Q：月（週）にどれくらいの本を読むのですか？

A：診断士試験の勉強を始める前は、年間 200 冊を目標にしていたこともあります。月 15～16 冊のペースでした。この時期は多読を第一。試験勉強中は、多くても月 2 冊程度。4 月から 8 月はまったく読んでいません。合格後はバラバラです。本によって速読する場合と精読する場合の違いもあります。診断士の活動が忙しい時は減りますし。今年は 10 月までで 50 冊なので平均すると月 5 冊ペースということになります。

Q：どうやって読む本を選んでいきますか？

A：友人のお薦めが中心です。ブロガーや編集者の方の、SNS の投稿でお薦めを確認したり直接会った時に聞いたりしています。購入は、極力、リアル書店に行きます。目的の本以外で、気になる本と出合うこともあるので。実はそういう本こそ、予想外に大きな影響を受けたりしてきました。

Q：書店に行くと多くのビジネス書がありますが、読んでいて面白い本、売れる本の共通項はどんなところだと思いますか？

A：基本は読みやすいこと。難しいことがやさしく丁寧に書かれているのは必須です。そのうえで、新しい切り口があることですね。

Q：どんな本のどんな内容が診断士として、または本業に、役に立ちましたか？

A：マーケティングや企業戦略の良書は、企業経営理論、事例Ⅰ・Ⅱとダイレクトに役立ち、その後の診断士活動や本業でも役に立っています。

あと『営業マンのための最低限の簿記』みたいなタイトルの本を読んでいたのは、いま考えると、財務・会計を勉強するうえで基礎になったと思うし、現在、経理をやらされている立場としても、プラスに働いていると思います。

●執筆実績も数多いですが・・・

Q：最近の執筆実績は？

A：・『企業診断』2014年12月号（同友館）

特集記事・「始めよう!“自分”診断——目標達成に活かす診断スキル」

・『企業診断』2015年3月号（同友館）特集記事・「診断士 ビフォー☆アフター」

- ・『道経塾』2015年5月号（モラロジー研究所）
「リーダーの条件」（ダイヤ精機 諏訪貴子社長インタビュー）
- ・『企業診断』6月号 Focus～情熱と冷静と
「多様性が共存できる社会を目指して」（マザーハウス 山崎副社長）
- ・『企業診断』8月号 Focus～情熱と冷静と
「次世代につなぎ、生み出す日本の伝統」（和える 矢島里佳社長）
- ・『企業診断』10月号 Focus～情熱と冷静と
『「陽転思考」で新たな道を拓き続ける』（作家・和田裕美事務所代表 和田裕美）

Q：執筆に至るまでの経緯は？どのように執筆の仕事に出会うのか？

A：「取材の学校」という、診断士向けの講座を受講したことがきっかけです。卒業すれば、最低限、1本の執筆は紹介していただけたので、それが最初の執筆でした。

ただ、その後のつなげるためには、品質の良いものを入稿しないといけないと思います。ちゃんとしたものを書けば、次も依頼をいただける可能性が高まります。編集者と人間関係ができればこちらから提案をしていくことも可能になります。

『企業診断』（同友館）は診断士及び診断士受験生向けの雑誌ですから、診断士が書く機会を多く提供されています。研究会やマスターコースのグループ単位で執筆することも多いです。そういう機会を得て、きっかけにするのがいいのではないかと思います。

僕の場合は、『企業診断』以外に執筆の場を広げていけるようになるのが課題だと思っています。

Q：執筆の楽しいこと、苦しいこと

A：取材をして書く、という機会が多いので、普段会えないような人や、会えてもそこまでじっくり話を聞けないような人から、独占的に話が聞けるといのは贅沢な時間です。

自分なりに納得のいく記事が書けて、編集の方から「校了です」と連絡をいただいた時も、爽快な気分になれます。逆に苦しいのは、書けないとき。書きたいことはあるのにうまくまとまらず、真っ白な Word を呆然と見ているときは、「この仕事、受けなきゃよかった」と思います。毎回、締め切りぎりぎりまで書けずに苦しんでいます。書きあがってしまうとそんなことは忘れて、また書きたいと思うのですが（苦笑）

Q：書くときに意識していること、大切にしていること

A：「誰も他人の書いたものなど読みたくない」ということです。ですから、書き出しで興味を持ってもらってその先を読みたいと思ってもらえるようにということを常に考えています。

そのうえで、最後まで読んでもらえれば、何かを感じてもらえる文章になるようにしたいと思っています。ひとつでも新しい行動を起こしてもらえたらいいかと。

Q 執筆の仕事が、診断士としてや、本業にはどのように役に立ちますか？

A：「取材」で言えば、やはり経営者の方から直接お話を聞けるのは大きいです。しかも、講演会のように一方的に聞くのではなく、自分が聞きたいことを質問できるわけですから。以前、ある会社の CFO にインタビューしたときは、診断士として財務にどう向かい合えばいいのか、会社で任されている経理の本当の目的は何か、というようなことを教えてもらえました。

また、文章を書くことは自分の頭を整理できます。自分の実務経験などをまとめることで、自分のキャリアを俯瞰でき、次のステップを考える機会を得られると思います。

Q: その他、“読む”“書く” ことについて思うことがあれば教えてください。

A: たくさんの本を読むことも必要な場合があると思います。その意味で、多読・速読を否定するつもりはありません。

しかし、テーマごとに 1 冊、じっくりと腰を据えて精読する本があるほうが良いと思います。特に診断士の場合、一次試験を通してそのような知識をインプットしていますから、いたずらに新しい知識を追い求めないで、基本となる古典的な良書をじっくり読む機会を作ったほうが良いと思っています。

売れているビジネス書の内容は、8 割以上、既存の本に書かれていることです。1 割が新しい切り口という本が多いです。基本書をきちんと押さえておけば、その分野のビジネス書の内容の 9 割は復習です。ですから速読でいけます。1 割だけ、熟読すればいい。

書くことに関しては、少しでも興味があればとにかく書いてみることをお奨めします。ブログでもいいですし、SNS で少し長めの文章を書く機会を作ってもいい。たくさん書けばうまくなる、というわけではありませんが、書かなければうまくなりません。自分が書いたものを世の中にさらして、反応を得ながら少しずつ改良していくしかないと思います。

執筆の機会があれば、編集者から赤字が入ります。それもものすごく勉強になります。とにかく機会を見つけて「書く」という場に自分を置いてみてほしいですね。

【塾生のひとりごと～城北プロコン塾より～】



第 3 期城北プロコン塾にて勉強しております熊谷です。本年診断士となったばかりで右も左もわからない中、プロコン塾では経験豊かな先輩方の話を毎回楽しく拝聴しております。

これまで産業向け輸入機器の保守等を行うエンジニアとして働いてきました。伝統ある大企業の子会社に就職し、次に文化が全く違う外資系に移りました。その後独立し現在はエンジニアとして仕事を請け負う毎日です。独立してから痛切に感じたことは安定し運営してゆくことの難しさです。不安定な受注をいかに安定させるか、追いつかない支払いに対してどのようにして調達してくるか。会社員として働いていたころは気がつきませんでした。訪問していた中小企業では経営者の方は今の私とは比べ物にならないほど大変な思いで運営されていたのでしょうか。日々を過ごしているうちに、そのように感じ経営に興味を持ちました。それが診断士になろうと思った理由です。エンジニアとして、また物を作る現場を見てきたものとして、自分の何がこれから役に立つかを考えている毎日です。

仕事とは別の話ですが、最近、人に伝える・教えることの難しさを感じるがありました。子供の勉強を教える機会があり、こちらの意図することが伝わらなかったのです。会社員だったころ課長について期間もあり、人に伝える・教えることの経験はあったのですが、いやはや子供は一筋縄ではいきません。会社では共通の目的がありそれに向かいますが、子供にそのようなことを説明しても、もちろん無駄です。こうなるとあの手この手でモチベーションをアップさせ行動してもらえないようで、まるで心理学の勉強です。

連絡先：keiei.kumagai@gmail.com

【本誌に関する皆さまのご意見、ご要望をお待ちしております】

①皆さまがお持ちの“ネタ”を提供してください

- ・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。⇒広報部員が潜入します

- ・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します
- ・診断士としてのノウハウを紹介したいなど ⇒特集記事化します。

②皆さまが知りたいことを教えて下さい

- ・企業内診断士の活動状況が知りたい。
 - ・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。
- ⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

③読者としての（批判も含め）感想をお聞かせください

- ・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

④本誌編集スタッフ募集中

- ・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」でも構いません。

問い合わせ先 城北支部広報部：johoku.kouhou@gmail.comまで よろしくお願い致します。

JOUHOKU SHINDAN 誌

～診断士が稼ぐ手段”書く”～

2015年12月23日発行

発行者：城北支部長 朝倉久男

編集者：城北支部 広報部